

和名	分類	特徴ほか	会える場所											
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他								
サトキマダラヒカゲ	タテハチョウ科	樹液に群がる落ち着きのないジャノメチョウ	△	x	○	全国								
			成虫発生時期(月)											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○食草		食樹	発生回数/年		越冬形態									
		タケ、ササ類	2		蛹(サナギ)									



生田緑地 5月下旬 コナラの樹液を吸う



生田緑地 6月初旬 湿地上を飛翔



生田緑地 6月初旬 コナラの樹液を吸う



ヒメキマダラヒカゲ 入笠山 8月中旬 ヒヨドリバナで吸蜜。後にアサギマダラが見える

サトキマダラヒカゲは日本の固有種で、生田緑地でも雑木林の中を飛び回ってはクヌギ、コナラなどの木の幹から樹液の出ているところに群がり、他のジャノメチョウやスズメバチと押し合いながら樹液を吸ったり、2～3頭が「卍巴」で追いかけてあっている光景をよく目にします。一方、花を訪れ吸蜜している姿はみたことがありません。

生田緑地にはいませんが、殆ど同じ羽模様で、やや山地性の「ヤマキマダラヒカゲ」(本州の山地～北海道の平地・山地に生息)という別種がいます。また、羽の模様は少し違いますが山地性のヒメキマダラヒカゲは林の中だけでなくお花畑で訪花もする陽性のジャノメチョウです。